

懐かしく眺め、歩いた九州の山々

昨年4月「大崩（おおくえ）山に登りたい」という私の願いに応じて、関東、関西、九州各地から11名の高校同窓生が集まりましたが、残念ながら雨で流れました。

それから一年、今年も私のわがままに福岡在住のTさんが応えてくれて、車付きで付き合ってくれました。

私にとって大崩山は高校時代からのあこがれの山で、何回かの登山チャンスをその都度何らかの事情で逃してきた山なのです。

再挑戦もまた雨にさえぎられて

5月7日、Tさんのご厚意に感謝し、かつ恐縮しつつ、雨の天気予報にもかかわらず宮崎まで格安ピーチで飛び、大崩山麓の宿に泊まりました。

翌朝、大崩山登山に挑戦したのですが、天候は好転

せず、結局登山口から半時間ほど登った地点で、断念し下山しました。

思い出の山々を眺めて

Tさんには返す返すも申し訳ないことでしたが、彼の運転で日之影町から高千穂を経て、阿蘇の外輪山をかすめて九重に至り、雨の長者原（ちょうじゃばる）を散策しました。

雨にけぶる阿蘇草原の景色も思い出深く眺めましたが、長者原の湿原は故郷に帰ったような感慨を覚えて、柄にもなくと言われそうですが、幾分か感傷にひたりつつ、傘をさして木道を歩きました。

タデ湿原の入り口では藤の花が、門構えそのものの形で出迎えてくれ、湿原では水滴を乗せた新芽、若芽の中でサクラソウのピンクが点々と、時には塊となって目をひき、またキスミレ、ウマノアシガタ、リュウキンカの黄色が新緑との鮮やかなコントラストを見せていました。

サワオグルマも草むらから頭を出して存在感を誇示していました。

時折風が強く吹くにもかかわらず、柔らかな春の雨は緑のグラデーションで九重連山を滲ませ、回廊をゆったりと歩む人々をも、その情景の中に溶け込ませていました。

遠く、近くウグイスの囀りが響き、あのややけたたましいホトトギスの鳴き声すら霞んで聞こえるように思われました。

ミヤマキリシマ 由布岳で→



↑ ジャケツイバラ（大崩山麓・林道わきで）



湯布院温泉の民宿に投宿

この日は湯布院で泊まることとし、駅前のモダンな観光案内所で「安い順で」宿を探してもらい、金鱗湖近くの民宿「つたや」を紹介してもらいました。露天風呂風の温泉にゆったりとつかって汗と疲れをとり、夕食をすますとすぐに眠りに就きました。

雨の由布岳に登る

翌朝、早朝から二人で金鱗湖周辺を散歩、落ち着いたたたずまいの町家とそこに植えられている種々の花を眺めて歩きました。宿に帰り、朝食もそこそここに出立。Tさんに由布岳正面登山口まで送ってもらいました。

由布岳は双耳峰のいただきを雲で隠していましたが、山裾の笹原は雨の中で柔らかなグリーンが広がり、ササの中で各種のスミレやヒメハギ等の可憐な花が隠れるように花を開いていました。笹原の中を進んで飯盛ヶ城



↑サワオグルマ

(いいもりがじょう)に登り、急坂を下って合野越から正面口ルートをジグザグに登りました。

雨具、スパッツを身に着けての単独行でしたが、おなじ単独のランナーや登山者、野生鹿などに行きかいながら往復、ほぼコースタイムで歩けました。不安を抱える左ひざも痛まず、ミヤマキリシマ、他のツツジ、サクラなどの花を楽しみ、気持ちの

←九重・タデ湿原 良い山登りでした。



続・二上山に咲く花々 50

キキョウ（桔梗）

キキョウ科キキョウ属

写真は 澤木仁 さん

秋の七草の一。古くには「あさがお」と呼ばれたそうです。初秋、草地で青紫色の美しい花（5 cmほど）を開いて登山者を喜ばせます。最近めっきり少なくなり、ここに載せるかどうか迷いましたが、連載の節目を飾る花として登場してもらいました。この花は雄しべと雌しべの成熟時期がずれていて、自家（花）受粉を避ける仕組みになっています。

